

第 216 回 暮らしの SDGs 学習会 記録

1. **参加者** (敬称略) 増永、吉永、横田、平手、大塚、前崎、黒島、古山、大河原、筒井 (記)
2. **日 時** 2025 年 12 月 12 日 (金) 14:00 ~ 15:30
3. **場 所** 国立環境研究所 (茨城県つくば市小野川 16-2)
4. **テーマ** 国立環境研究所における地球温暖化防止関係の研究等の見学
5. **案内・説明** 案内: 国立環境研究所 企画部 広報室
説明・所内案内: 上記広報室及び気候変動適応センター、
陸域モニタリング推進室 各ご担当
6. **内 容** 初めに、研究所の概要説明があり、その後、気候変動適応センター及び陸域モニタリング推進室へ移動、各セクションの研究内容等の説明がありました。

< 研究所概要 >

- * 国立環境研究所は、1974 年に国立公害研究所として発足し、1990 年に全面的改組を行い、国立環境研究所と改称しました。その後、福島支部、琵琶湖分室などが新設されました。
- * 研究の取組みは、基礎・基盤的取組が主で、地球システム分野、資源循環分野、地球環境保全分野、生物多様性分野、気候変動適応分野など 8 分野に分かれています。
- * 構成人員は、全体で 310 名となっており、研究部門は 228 名になっています。また、年間予算は運営交付金や受託収入などで、令和 7 年度は 21,475 百万円となっています。

< 気候変動適応センター >

- * 気候変動影響の検出・予測、適応策実施による影響低減効果などの評価などを行っています。
- * パリ協定では、地球の平均気温の上昇を 1.5℃の抑えることが目標ですが、厳しい状況です。
- * 地球温暖化対策の啓発活動も行っており、パンフレットの他に、すごろく、かるた、なども制作し、小学校などへの出前事業も行っています。

< 陸域モニタリング推進室(地球システム分野) >

- * 地球システム分野では、大気・海洋・陸域における気候変動関連物質の変動観測や将来予測などを行い、地球環境保全の研究を行っています。
- * 陸域モニタリング推進室では、研究所内の林を利用し、木が多いところの CO₂ 濃度 (光合成の影響) の測定や、土壌からの CO₂ の排出量を、温暖化後の検討のために、土壌を温めてその変化を測定しています。

* 次ページに見学時の写真を掲載

< 次回予定 >

日 時 : 2026 年 1 月 9 日 (金) 13:30 ~ 15:00

場 所 : 生涯学習センター 3F 会議室

内 容 : ソーラーシェアリングの現状と課題 (オンライン講演を映写)

講 師 : 西山朝光氏 (市民エネルギーちば専務取締役)

＜広報室会議室で研究所の概要説明を受ける＞



＜気候変動適応センター会議室内で説明を受ける＞



＜陸域モニタリング推進室の環境測定現場にて説明を受ける＞

